2024/2/18　　「 受難告知 」　　マタイ 20:17-19

今年は早くも受難節に入りました。春一番が吹いたとも聞きます。例年よりも、春が早く来るかもしれません。震災で幕を開けたこの年ですが、レントの季節、苦難の中にある方々に、長引く戦災の犠牲となっている人々に、主の救いを祈ります。

すべての苦悩を知る救い主

今朝の聖書の箇所は、ルカの「エルサレムの冬」の始まりの部分に重なります。公生涯の中で、最終段階の始まりと言えるでしょう。戦国の主将が、カブトを被って戦場に向かう朝の場面であり、受験生が試験会場の門をくぐる緊張の一瞬のような、緊張感漂うシーンです。それにしては、何とイエス様の言葉は、一見弱々しく、人間の言葉とかけ離れていることでしょうか。苦悩の中にこそ、本当の救いがある事を、神の子であるイエス様は、この世に示しておられるのです。

私たち人間は弱い存在です。裏切られれば心のバランスは崩れます。不義が通れば気力を失います。侮辱や無礼を受ければ冷静さを保てません。体が傷ついたり、痛みがあれば、前に進めなくなります。そして何より死んでしまえば、おしまいです。
しかし、イエス様は、強い存在です。そのすべてを受け止められました。そして、その栄光を、後に続く弟子たちに、この世全体に、与えようと示されました。そのためには、ご自身が、その苦悩を知っている事を、証ししなければなりませんでした。
イエス様は私たちの人生のリーダーとして、同じ事を体験してくださったのです。

サーバント・リーダー

「私はイエス様じゃありませんから、そんな事できません！」と私たちは口にしたり、心に思ったりします。確かに、その通りで、人間とイエス様では、根本から違います。弟子たちにとっても、そうでした。大切な受難告知のすぐ後に、ヤコブとヨハネの母（母マリヤの姉妹、イエス様のおばさんと言われます）が、自分の息子たちの出世をねだるエピソードが続いています。彼らにとっては、一番弟子のペトロやアンデレは、イス取りゲームの競争相手だったのです。

人生は、延々と続くイス取りゲームです。日常の買い物から、職場のポストまで、パートナー選びから住む場所まで、嫌と言うほど私たちは人と奪い合っています。そして、ズルされた、取られた、騙された、押し飛ばされた、と落ち込み、今度は自分が、いつか死ぬまでには見返してやると、悔しさをバネにして立ち上がります。

イエス様は、そんな姿を、意外と頭から否定されることはなさいませんでした。しかし、世の常はそうだけれど（25 節）、神様が与えてくださる人生は、そういう法則ではないと教えられました。仕えることは、自らの思いで人に与えることです。この法則が成り立つのは、イエス様がすべての世の力に打ち勝てる事を、証明してくださったからです。主に与えられた恵みを見つけて、その祝福を与えていきましょう。